



東京学芸大学附属高等学校

第23回 公開教育研究大会・SSH 事業報告会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第23回公開教育研究大会および令和6年度SSH事業報告会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題
- 『生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント(2)～カリキュラムづくりを見据えた教科融合・連携の試み～』
- これからの予測困難な時代を生きていく生徒たちには、エージェンシー 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力 が求められています。本校では生徒エージェンシーを育むためのカリキュラムを実現させるべく、今年度は「教科・科目の融合・連携」に焦点を当てて取り組んで参りました。研究大会ではその授業実践について報告させていただきます。

2. 日時・内容
- 令和6年11月30日（土）

9:00		9:30 ～ 9:50		10:00 ～ 10:50		11:10 ～ 12:00		13:00 ～ 14:15		14:30 ～ 15:45		16:00 ～ 17:00	
受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	昼休み	研究協議会Ⅰ (公開授業ごと)	休憩	研究協議会Ⅱ (教科ごと)	休憩	SSH事業報告会		

公開授業

Ⅰ(10:00～10:50)・Ⅱ(11:10～12:00)

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
地理歴史 理科	地理総合 地学基礎	松本 至巨 齋藤 洋輔 栗山 絵理 塚本 更	ジオパークを通して考える 地理・地学を学ぶ意味 ～学校設定教科「SSH 地球科学」 の実施に向けて～	本校のⅢ期目のSSH事業の一環として、来年度より地理総合と地学基礎を融合させた学校設定教科「SSH 地球科学（4単位必修）」を開講予定です。その実施を視野に入れて、ジオパークを話題として、地理と地学を学ぶ意味、融合させる意義について生徒たちと共に考えたいと思います。
国語 芸術	古典探究 音楽Ⅱ 美術Ⅱ 工芸Ⅱ 書道Ⅱ	佐藤希世子 塚越健一朗 荒井 一浩 居城 勝彦 神田 春菜 加藤 将	『源氏物語』 「光源氏誕生」	『源氏物語』を中心とし、古典、芸術、歴史で教科連携の授業を行います。古典探究における学習と並行して、芸術の授業や歴史の教員による解説を行うことで、生徒一人一人の『源氏物語』に対するイメージを豊かに深めていくことを目指します。※古典探究の授業後に、音楽Ⅱ・美術Ⅱ・工芸Ⅱ・書道Ⅱの各芸術科目に分かれます。
国語 理科	現代の国語 地学基礎	日渡 正行 塚本 更	岩石名を組み直す	岩石の名称について、既存の名前でシステマティックになっていない部分、何かの理由で実態とずれている名称について、根拠に基づいて提案します。この活動と評論「ことばとは何か」を絡めていきます。
理科 保健	生物基礎 保健	大谷康治郎 武井 佑真	健康に関する 概念的知識の獲得に向けて	生物基礎で学習する内容は日常生活や社会と深く関わりを持っています。生徒が学びを社会へつなげるためには、生徒自身が「問を生起」することがその原動力となります。生物基礎には、健康に関する学習内容があるため、養護教諭とともに、生物基礎と保健（健康）に関する学習内容から「事実的知識」を「概念的知識」へと導く実践を提案したいと考えています。

公開授業 II 11:10～12:00

家 庭 公 民 図 書	家庭基礎 公共 学校図書館	栗原 智美 山北俊太郎 明田川綾乃 岡田 和美	小学生の金融教育授業を 計画しよう！	高校生としての金融教育の授業内容を踏まえて、今まで自分達が学んできた内容を整理し振り返ることで、小学生にとって大切な金融教育を考えることを題材に、金融教育マップを使って、高校生自身にとって大切なことを広く、深く関連付けながら考えていきます。情報ステーションとしての学校図書館を多機能な「場」として活用し、よりマクロに考える３学期の公共の授業へ繋げていく予定です。
数 学 国 語	数学Ⅰ 現代の国語	吉岡 雄一 若宮 知佐	数学で使われる論理と 日本語としての論理	数学の文章特有の論理構造について、国語の立場と数学の立場の双方から「読み方」を模索していきます。

研究協議会Ⅰ（公開授業ごと）13:00～14:15

公開授業および融合・連携した科目のカリキュラムについて協議します。参観された授業ごとの研究協議会にご参加ください。

科 目	研究テーマ	助 言 講 師 （ 所 属 ）
地理総合 地学基礎	学校設定教科「SSH 地球科学」の 持つ教科融合の可能性	川村 教一（兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 教授） 中村 康子（東京学芸大学 人文社会科学系人文科学講座地理学分野 准教授）
古典探究 音楽Ⅱ・美術Ⅱ・ 工芸Ⅱ・書道Ⅱ	文学作品を通した教科間連携 － 芸術・古典・歴史の視点を 取り入れた授業 －	中村 純子（東京学芸大学大学院 教育学研究科国語サブプログラム 准教授）
現代の国語 地学基礎	教科融合におけるコンテンツ・ コンピテンシー・エージェンシーに ついて	白勢 彩子（東京学芸大学 日本語学日本文学分野 教授）
生物基礎 保健	学びを社会につなげる授業の構築と 「問いの生起」について	中西 史 （東京学芸大学教職大学院 准教授） 荒川 雅子（東京学芸大学養護教育講座 講師）
家庭基礎 公共 学校図書館	現代的課題に対する 教科融合・連携の可能性について	藤田 智子 （東京学芸大学 総合教育科学系生活科学講座家庭科教育学分野 准教授） 前田 稔（東京学芸大学 総合教育科学系教育学講座生涯教育学分野 教授） 八木 陽子(JFLEK委員・キッズマネーステーション代表)
数学Ⅰ 現代の国語	数学の論理と 国語の論理について	小林 廉（国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官）

研究協議会Ⅱ（各教科） 14:30～15:45

教科融合・連携の取り組みを踏まえ、教科ごとにカリキュラムや教科融合・連携のあり方について協議します。担当されている教科ごとの研究協議会にご参加ください。

教 科	研 究 テ ー マ	提案者	所 属
国 語	国語科の教科間連携の試み ①芸術科との連携	国 語 科	中村 純子（東京学芸大学大学院 国語サブプログラム 准教授）
国 語	国語科の教科間連携の試み ②数学・理科との連携	国 語 科	白勢 彩子（東京学芸大学 日本語学日本文学分野 教授）
地歴公民	地歴公民科の教科間融合・連携の試み	地歴公民科	中村 康子 （東京学芸大学 人文社会科学系人文科学講座地理学分野 准教授）
数 学	教科・科目間連携の数学科の試み	数 学 科	小林 廉（国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官）
理 科	理科における教科・科目間連携の提案	理 科	川村 教一（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 教授） 中西 史（東京学芸大学教職大学院 准教授）

教 科	研 究 テ ー マ	提 案 者	所 属
保健体育	保健のカリキュラム・マネジメント ～養護教諭および他教科との 融合・連携の観点から～	保健体育科	佐見 由紀子（東京学芸大学教職大学院 教育学研究科 教授）
外国語 (英 語)	英語科のカリキュラム・マネジメント ～持続可能な教科連携を考える～	英 語 科	金谷 憲（東京学芸大学 名誉教授）
家 庭	家庭科のカリキュラム・マネジメント ～いかに生きるか？を 学校種を超えて考える～	栞原 智美	藤田 智子 （東京学芸大学 総合教育科学系生活科学講座家庭科教育学分野 准教授） 八木 陽子（J-FLEK 委員・キッズマネーステーション代表）

SSH 事業報告会 16:00～17:00

本校は、今年度より SSH 事業のⅢ期目指定を受けており、「生徒エージェンシーを育むための次世代理数カリキュラムの開発と普及」という研究開発課題を掲げ、新たな取り組みを進めています。本事業報告会では、本校 SSH 事業の概要説明と共に、本校 SSH 事業の4つの柱である「事業次世代人材のための教科融合・教科連携での授業開発」、「SSH 探究基礎・SSH 探究・発展 SSH 探究」、「国際交流」、「SSH 特別授業」について報告いたします。

3. 後援 東京都教育委員会

4. 参加申込

公開授業および研究協議会への参加申し込み受付は、<https://forms.gle/rES2bRb2FAANQPEX9>で行います。
上記 URL または右 QR コードからアクセスしてください。



5. 本校へのアクセス

電車

- ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩 15 分
- ・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20 分

バス（東急バス）

- ・【渋谷駅】西口 31 番バスのりば「渋 32 野沢龍雲寺循環」行き
- ・【三軒茶屋駅】6 番バスのりば「黒 06 目黒駅」行き

※ いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩 1 分

6. その他

- ・参加費は無料です(資料により実費をいただく場合もあります)。
- ・参加される方のお弁当の準備はできませんので、各自でご用意ください。
- ・お食事をする部屋はご用意いたします。なお、学校周辺に飲食店はありますが、コンビニが数軒あります。

問い合わせは下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL：03-3421-5151(代) FAX：03-3421-5152

E-mail：gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

担当：研究部 齋藤 洋輔

本校の研究活動はこちらからご覧ください。

<https://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp/research/lists/>

